

店長会議 症例検討

悪性リンパ腫

H27 年 6 月作成

長良店

〈処方 1〉のような処方の方がいらしたので確認を行ったところ、〇〇病院にて悪性リンパ腫との診断を受け治療中とのことであった。悪性リンパ腫の治療法には、化学療法、放射線療法、抗体療法、造血幹細胞移植などがある。悪性リンパ腫のタイプや病気の進行状況などにより、これらからひとつ、あるいは組み合わせた治療が行われるとされる。

〈処方 1〉

患者名 T.E

タケプロン OD15	朝食後	1T		
バクタ配合錠	朝食後	1T		
パントシン 100	毎食後	3T		
マグミット 250 mg	毎食後	3T		
プレドニン錠 5 mg	朝食後	10T	昼食後 6T	夕食後 4T
プルゼニド 12mg	就寝前	3T		
ラキソベロン内用液	就寝前	20mL		
ベネット錠 75mg	起床時	1T		

今回の患者は化学療法のうち、R-CHOP 療法を施行中とのことであった。

患者の主訴として、プレドニンを服用した際便秘がひどい、時々出ないことがあるとのことであった。腸には異常は見られないとのことであり、R-CHOP は 3 クール目とのことであった。感染予防としてバクタ配合錠、抗癌剤の副作用である便秘対策として緩下剤、およびプレドニンの副作用である骨粗鬆症に対しベネット錠が処方されたと考えられる。

R-CHOP 療法は、かつてより使用されてきた CHOP 療法開始前にリツキシマブを投与することにより CHOP 療法を上回る効果と 2 年後生存率を得たとされる (表 1)。

(表 1)

	Bcl-2-positive patients		Bcl-2-negative patients	
	R-CHOP	CHOP	R-CHOP	CHOP
Response rate	78%	61%	76%	73%
P value vs CHOP	.009		.7	
2-year overall survival	67%	48%	72%	67%
P value vs CHOP	.004		.6	
2-year event-free survival	58%	32%	60%	40%
P value vs CHOP	<.0001		.13	

以下に R-CHOP 療法に使用される薬剤、および投与期間を示す。

R-CHOP 療法

リツキシマブ	375 mg/m ²	点滴静注	day 1
シクロホスファミド	750 mg/m ²	点滴静注	day 2
ドキシソルビシン	50 mg/m ²	静注	day2
ビンクリスチン	1.4 mg/m ²	静注	day2
プレドニゾン	100 mg/body	内服 (静注)	days2-6

21 日間隔で、6-8 コース繰り返す

- 治療サイクルは病気のタイプや進行状況で異なる。
- 患者の状態によりプレドニゾンの服用方法が異なる。

《R-CHOP 療法の際に使用する標準的な内服薬》

- プレドニゾン錠 5 mg 副腎皮質ホルモン剤
- 酸化マグネシウム錠 緩下剤
- バクタ配合錠 ニューモシスチス肺炎の予防

《R-CHOP 療法の際に使用する注射薬》

- シクロホスファミド注 アルキル化剤
- ドキシソルビシン注 アントラサイクリン系抗がん剤
- ビンクリスチン注 ビンアルカロイド
- リツキシマブ注 分子標的薬

〈予測される副作用〉

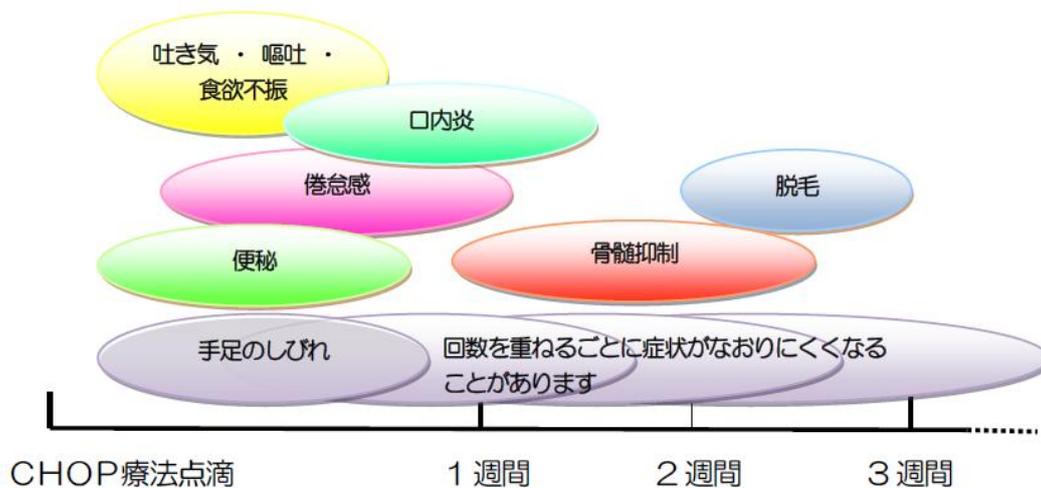
- 自覚症状があるもの

食欲不振、吐き気・嘔吐、便秘、倦怠感、
手足のしびれ、のどの痛み、発熱、脱毛 など

- 自覚症状がないもの

骨髄抑制（白血球減少・赤血球減少・血小板減少など）、
肝機能低下、腎機能低下 など

〈副作用の発現時期〉



〈その他注意すべき副作用〉

- 心毒性

ドキソルビシンによる副作用。主な症状として息切れ、動いたときの息苦しさ、胸痛、足のむくみ、頻脈。

- 間質性肺炎

シクロホスファミドが原因となり間質性肺炎を引き起こすことが報告されている。主な症状として、空咳や呼吸困難、息切れ、発熱など。

- 感染症

治療期間中、白血球の一部である好中球だけでなくリンパ球が減少することにより、細菌、ウイルスおよび真菌による感染症を引き起こす。

〈ステロイドによる重大な副作用〉

1. **続発性副腎皮質機能不全、糖尿病**
2. **消化管潰瘍、消化管穿孔、消化管出血**：消化管潰瘍、消化管穿孔、消化管出血があらわれるとの報告があるので観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど、適切な処置を行うこと。
3. **肺炎**
4. **精神変調、うつ状態、痙攣**
5. **骨粗鬆症、大腿骨及び上腕骨等の骨頭無菌性壊死、ミオパチー**
6. **緑内障、後嚢白内障、中心性漿液性網脈絡膜症、多発性後極部網膜色素上皮症**：連用により眼圧上昇、緑内障、後嚢白内障（症状：眼のかすみ）、中心性漿液性網脈絡膜症・多発性後極部網膜色素上皮症（症状：視力の低下、ものがゆがんで見えたり小さく見えたり、視野の中心がゆがんで見えにくくなる。中心性漿液性網脈絡膜症では限局性の網膜剥離がみられ、進行すると広範な網膜剥離を生じる多発性後極部網膜色素上皮症となる。）を来すことがあるので、定期的に検査をすることが望ましい。
7. **血栓症**：血栓症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
8. **心筋梗塞、脳梗塞、動脈瘤**：心筋梗塞、脳梗塞、動脈瘤があらわれることがあるので、長期投与を行う場合には、観察を十分に行うこと。
9. **硬膜外脂肪腫**：硬膜外脂肪腫があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には減量するなど、適切な処置を行うこと。
10. **腱断裂**：アキレス腱等の腱断裂があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には減量するなど適切な処置を行うこと。

引用文献

R-CHOP Improves Overall and Event-Free Survival in Patients With Aggressive or Poor Prognosis NHL

国立がんセンター**CHOP** 療法の手引き

医薬品医療機器総合機構 医薬品添付文書